

# ピアノの修復をご支援ください。

## 「小出小学校寄贈ピアノ修復支援 100万円寄金」趣意書

小出小学校の校長室には、戦後間もなく旧小出村有志により寄贈されたピアノが保管されております。しかしながら70年を経て断線や駒のバネ等の劣化が進んでいて演奏することができません。

野木直樹校長は、2023年に創立150年を迎えるにあたり、「70年前に地元の方々から寄贈を受けたこのピアノを、今また地域の皆さま方のお力をお借りして修復し、6年後の創立150年記念行事において卒業生による演奏会を開いて式典に花を添えたい。」との意向を、去る3月17日の第144回卒業証書授与式の参列者に訴えられました。

相模原市内のあるピアノ修理専門業者によれば、演奏に耐えうるまでの修復は可能であるとの事です。

この熱意ある言葉を受けた小出地区まちぢから協議会は、2017年度（平成29年度）において「小出小学校150周年記念事業部会」を新設して、「寄贈ピアノ修復100万

円寄金」として募金活動を行うことにいたしました。

つきましては、地域の皆様をはじめ各界の方々におかれましては、寄金設立の趣旨をご理解いただきまして、ご協力を賜りますようお願い申し上げます次第であります。後日、各部会員等が直接お伺いする場合もございますので、その節はよろしくお取り計らい下さるよう、重ねてお願い申し上げます。

なお、1948年（昭和23年）、地域の方々から小出小学校へピアノ寄贈にいたった経緯等につきましては、別に添えました「小出小学校の70年前のピアノ物語」をご参照いただきたく存じます。

小出地区まちぢから協議会

会長 矢野 福德

小出小学校150周年記念事業部会

部会長 鈴木 暹



## 小出小学校の70年前のピアノ物語

1947年（昭和22年）新学制が敷かれた当時のことです。新しい教育制度のもと、ピアノによる音楽教育で荒廃した人びとの心を慰めようと、今は学校には無いけれども必ず導入される日が来ることを信じて、ピアノを習い始めた二人の若き女性教員がおりました。

当時、鎌倉の神奈川師範学校（現横浜国立大学）の音楽を担当されていた月岡先生（注・音楽教授月岡忠三教授では？）に教えを請うたお二人は、二年続きで夏休みを利用して鎌倉まで通いました。小出から鎌倉まで通うことは、現在と違って交通手段の乏しい時代にあってそれは大変な事であったろうと推察できます。その女性教員のお名前は山本キヨ（現姓和田）先生ともうお一方ですが、このお二人は今も藤沢市内にお暮らしです。

さて、お二人はピアノのレッスンを受ける一方で、全教員挙げてピアノ導入の働きかけも行いました。当時の学校長伊澤學氏、小出村村長廣瀬善治氏、氏と同級生の山本幾譽氏（和田先生のお父上で当時は隣組の会長であったとか。）、小出村農業協同組合長野中彦松氏等と語り、村内の農業経営者や事業経営者等の協力を得て、当時の農産物の一つであった甘薯（サツマイモ）等売って得たお金や寄付金を募ってピアノを買おうと考えました。

この人々の努力は、翌1948年（昭和23年）に実を結びました。学校に真新しいヤマハ製のピアノが届き、早速「ピアノ披露宴」が催されました。お二人はもとより学校関係者の喜びは如何ばかりであったことでしょう。初めてピアノを使った音楽の授業での子ども達の驚きようは、眼をキラキラさせてそれは大変なものだったと和田先生は語ってくださいました。寄贈されたピアノは先生達が順番で練習し、夜間はロウソクを点して勉強し合ったとのこと。

70年の歳月を経て、ピアノは断線したり鍵盤が戻らなくなったりして、いつの間にか人々の記憶から忘れられてしまいました。野木直樹校長は趣意書にも有りますとおり、当時の人々の心のこもった贈り物のピアノを惜しみ、出来ることなら復活させたいとの強い願いのもとに、6年後の小出小学校創立150年記念行事において、卒業生による演奏会を催したいご意向です。

校長室にただ漫然と置いてあるだけでは、何時かこのピアノは朽ち果ててしまうでしょう。野木校長のこの切なる願いを、地域の皆様のお力をお借りして実現させてみようではありませんか。

それは、私たちの地域の先人への恩返しでもあるように思います。

（当時の関係者の名誉を讃え、あえて実名を使わせていただきました。）

\*\*\* 寄金の方方法につきましては、以下をご参照ください。 \*\*\*

- ①訪問：「小出小学校150周年記念事業部会」の部会員が、お伺いします。
- ②郵送：〒253-0006 茅ヶ崎市堤1923番地 鈴木 暹 （Tel.090-1123-4041）
- ③振込：さがみ農業協同組合 小出支店 口座番号 0021565  
口座名義 小出小学校150周年記念事業部会 部会長 鈴木 暹